

納豆用大豆「すずほのか」の播種適期と栽植密度

【1 成果概要】

「すずほのか」は、倒伏しにくく褐斑粒の発生が少ない納豆用大豆品種として、平成 19 年度に岩手県の奨励品種として採用されました。そこで、岩手県における播種適期と好適栽植密度を調査し、栽培基準を明らかにしました。

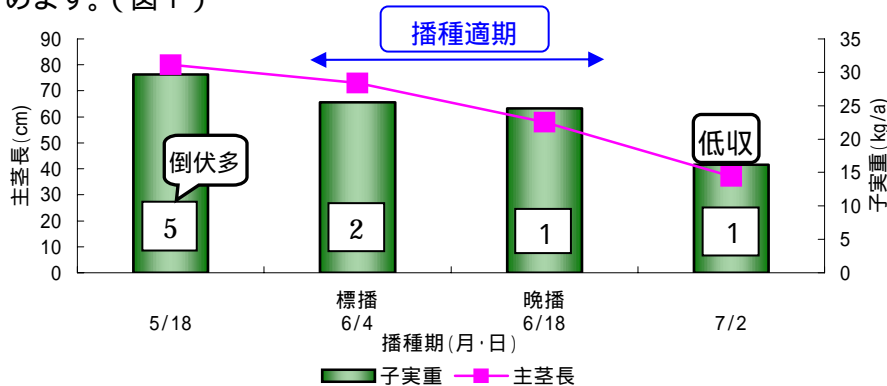
播種適期と好適栽植密度

地帯	播種適期(月/日)	栽植密度(本/10a)	畦幅(cm) × 株間(cm)
県南部	標播	6/1 ~ 6/15	10,000 ~ 15,000
	晩播	6/16 ~ 6/20	20,000
県中部	標播	5/15 ~ 5/31	10,000 ~ 15,000
	晩播	6/1 ~ 6/5	20,000
県北部	5/20 ~ 5/25	15,000	70 x 10

収量確保には標播とし、栽植密度は、畦幅 70cm 程度、10a 当たり 1 万 ~ 1.5 万本程度で、「コスズ」並の収量が得られます。

晩播とする場合の栽植密度は、畦幅 70cm 程度、10a 当たり 2 万本程度の密植とすることにより、標播と比較した収量減を 2 割程度に抑えることができます。

播種適期より早い播種では倒伏しやすくなり、遅い播種では低収となることから、適期播種に努めます。(図 1)



棒グラフ内の数値は倒伏程度 (0: 無、1: 微、2: 少、3: 中、4: 多、5: 甚)

図 1 「すずほのか」の播種期と生育・子実重の関係
(農業研究センター(北上) H16)



成熟期の「すずほのか」

【2 効果】

「すずほのか」の安定生産・安定供給が達成され、高品質な納豆の需要に応えられます。

【3 留意事項】

- 1 施肥は窒素施肥量 2 ~ 4kg/10a を基準量とし、肥沃地では少なめとします。
- 2 雑草・病害虫防除や中耕・培土は、「コスズ」等の体系に準じて行います。

【4 適応対象】

- 1 地帯 県下全域
- 2 対象者 大豆生産技術指導者及び生産者